

専門分野 II

| | | | |
|---|---------------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 成人看護目的・対象論 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 | | |
| <p>ねらい</p> <p>成人期にある対象は、人間として身体的・精神的・社会的に著しい成長と発達をとげる一方で、身体的には加齢に伴い機能低下や体力の衰えを自覚し受容していく時期である。そのような対象の特徴・発達課題、それに伴う特徴的な健康問題を理解し、それぞれに適した看護を学ぶ。成人期における健康保持増進のための成人保健活動について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期にある特徴と発達課題について理解できる。 2. 成人各期にある対象の特徴的な健康問題について理解できる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護の基本について理解できる。 4. 成人に対する看護アプローチの基本として、学習理論、行動変容理論、危機/ストレスコーピングの概念と看護の方法を理解できる。 5. 成人各期にある対象の健康を守る保健について理解できる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康レベルにあわせた看護の目的 2. 成人期にある対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフサイクルからみた成人の位置づけ 2) 成人各期の特徴と発達課題 3. 成人各期にある対象の特徴的健康問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活習慣に関連する健康障害 2) 職業に関連する健康障害 3) ストレスと健康障害 4) その他 4. 成人に対する基本的アプローチの主要概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康レベルと、成人の特徴に応じた看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行動変容理論と保健行動 (2) 大人の学習を促す理論 (3) 危機理論/ストレスコーピング 5. 成人の健康を守るための保健対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人保健活動の動向 2) 労働者に対する保健活動 3) 青年期の学生に対する保健活動 4) 地域住民に対する保健活動 5) 感染症予防に対する法律 <p>方法</p> <p>講義 グループ演習</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>基礎看護目的・対象論で学習した看護の対象と関連させて、成人期にある対象を総合的に理解する。さらに、看護の機能、保健医療チームにおける看護師の役割をフィードバックしながら成人看護に求められる役割や機能について理解する。後に続く成人看護学の学習の基になる科目である。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 成人の健康と生活を支える看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(15時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門5 成人看護学〔1〕 成人看護学概論 | | |
| <p>ねらい</p> <p>成人の健康期・健康危機期にある対象について学習する。身体的・精神的・社会的に自らをコントロールし社会生活に適応している人たちを対象に、現在の健康を維持するために必要な生活を整えるための援助や、主体的により健康を獲得していくために必要な看護の方法を理解する。生活習慣病に焦点を当て、健康の保持・増進のためどのような看護が必要なのかを学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の健康維持期にある対象の特徴が理解できる。 2. 代表的な生活習慣病について理解できる。 3. 生活習慣病予防のための看護の方法について理解できる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の健康・健康危機期にある対象の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的特徴 2) 精神的特徴 3) 社会的特徴 2. 生活習慣病の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活習慣病の範疇 2) 生活習慣病対策 3. 生活習慣病予防のための教育・指導 <ol style="list-style-type: none"> 1) 大人の学習を促す条件 2) 教育・指導の計画立案 <p>方法</p> <p>講義 ロールプレイ</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>生活者としての成人は価値観も多様であり、したがって健康観も多様である。そのような対象により高い健康レベルを獲得する、あるいは現在を維持することの必要性をいかに伝えるかを学習する科目である。成人教育学(アンドラゴジー)を学習し、効果的な健康教育や患者教育を行う基盤を作る重要な科目である。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 周手術期の看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 別巻1・2 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 | | |
| <p>ねらい</p> <p>手術療法や、麻酔療法の理解を含め周手術期にある対象の生体反応を理解し、それに伴う看護の方法を学習する。又、生体が順調に回復する過程を促進するための援助の方法を学習する。回復期においては、ボディイメージの変化を伴う手術に焦点を当て、新しい身体、生活に受容していくために必要な看護の方法を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術、麻酔が生体に及ぼす反応について理解できる。 2. 手術侵襲に耐えうる身体面、精神面、社会面のアセスメントの視点が理解できる。 3. 生体への侵襲を最小限にするための看護の方法が理解できる。 4. 術後合併症予防のための看護方法のが理解できる。 5. 失われた身体機能を受け入れ、適応していけるための看護の方法が理解できる。 6. 早期に社会復帰がはかれるための看護の方法が理解できる。 <p>授業内容</p> <p>(手術療法) (4h)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法の目的 2. 手術侵襲と生体反応 3. 手術創及び創傷 4. 手術前に必要な検査と異常所見に対する対処 <p>(麻酔学) (4h)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻酔と全身管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔とは 2) 麻酔法の選択 3) 麻酔の種類と術中管理 4) 麻酔覚醒と術後管理 2. 術後の経過にあわせた管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後の一般的経過と管理 2) 術後に起こり得る合併症 <p>(急性期・回復期にある対象の看護)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 開腹手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護 (10h) 2) 開胸手術を受ける患者の術前・術後の看護 (2h) 3) 開心手術を受ける患者の術前・術後の看護 (4h) 4) 開頭手術を受ける患者の術前・術後の看護 (4h) <p>方法</p> <p>講義</p> <p>グループ演習</p> | | | |
| 評価 | 筆記試験 | | |
| その他 | 人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進と関連が深い科目である。 | | |

| | | | |
|--|-------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 健康障害との共存を支える看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門 成人看護学[2][3][5][10] | | |
| <p>ねらい</p> <p>成人の慢性期にある対象について学習する。人間の身体を器官・系統別にわけて学習する。本科目では呼吸器、循環器、消化吸収、運動器系に障害を来した対象への看護を学習する。健康障害による疾病との共存をするために必要な看護や、急性増悪により急激な健康破綻を来さないための看護について学習する。人間の身体の正常な働きに異常を来した場合に引き起こされる症状を理解し根拠のある看護を学習する。又、検査・治療に伴う苦痛などの緩和について学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の状況に応じた看護の方法が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1)呼吸機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 2)循環機能機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 3)消化・吸収障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 4)運動機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 (6h) <ol style="list-style-type: none"> 1)呼吸機能障害を持つ患者の特徴 2)呼吸機能障害を持つ患者の看護 2. 循環機能障害をもつ患者の看護 (8h) <ol style="list-style-type: none"> 1)循環機能障害を持つ患者の特徴 2)循環機能障害を持つ患者の看護 3. 消化・吸収機能障害を持つ患者の看護 (8h) <ol style="list-style-type: none"> 1)消化・吸収機能障害を持つ患者の特徴 2)消化・吸収機能障害を持つ患者の看護 4. 運動機能障害をもつ患者の看護 (6h) <ol style="list-style-type: none"> 1)運動機能障害を持つ患者の特徴 2)運動機能障害を持つ患者の看護 <p>方法 講義 事例を用いたグループ演習</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験 試験時間(2h)</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>慢性期にある対象が、疾病と共存し主体的に健康管理できるよう関わるためにはどのような看護が必要かを学習する。臨地実習で活用することができる重要な科目である。</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | セルフケアを支える看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門 成人看護学〔6〕〔8〕〔9〕〔4〕〔11〕 | | |
| <p>ねらい</p> <p>成人の慢性期にある対象について学習する。人間の身体を器官・系統別にわけて学習する。本科目では内分泌・代謝、排泄、性・生殖、血液造血器、防衛機能系に障害を来した対象への看護を学習する。健康障害を持ちながら自ら生活をコントロールをすることで社会生活に適応できるための看護について学習する。成人期という統合的な存在として生きるという特徴を加味し、人間の身体の正常な働きに異常を来した場合に引き起こされる症状を理解し根拠のある看護を学習する。又、検査・治療に伴う苦痛などの緩和について学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の状況に応じた看護の方法が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 2) 排泄機能機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 3) 性・生殖機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 4) 血液造血機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 5) 防衛機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝障害を持つ患者の看護 (6h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の特徴 2) 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 糖代謝機能障害を持つ患者の看護 (2) その他の内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護 2. 排泄機能障害をもつ患者の看護 (8h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄機能障害を持つ患者の特徴 2) 排泄機能障害を持つ患者の看護 3) 排泄経路を変更した患者の看護 3. 性・生殖機能障害をもつ患者の看護 (8h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 性・生殖機能障害を持つ患者の特徴 2) 性・生殖機能障害を持つ患者の看護 3) 乳房切除術を受ける患者の看護 4. 血液造血機能機能障害を持つ患者の看護 (4h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液造血機能障害を持つ患者の特徴 2) 血液造血機能障害を持つ患者の看護 5. 防衛機能障害をもつ患者の看護 (4h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 防衛機能障害を持つ患者の特徴 2) 防衛機能障害を持つ患者の看護 <p>方法</p> <p>講義</p> <p>事例を用いたグループ演習</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>慢性期にある対象が、疾病と共存し主体的にセルフケアができるよう関わるためにはどのような看護が必要かを学習する。臨地実習で活用することができる重要な科目である。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 終末期にある対象の看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(15時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 緩和ケア 医学書院 | | |
| ねらい | | | |
| <p>成人の終末期にある対象について学習する。終末期では、成人期にある対象の死因の第1位であるがん疾患を取り上げる。がん疾患で人生の終焉を迎える対象及び家族に、その人らしい最期が迎えられるための看護を学習する。</p> | | | |
| 目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象の特徴について理解できる。 2. がん性疼痛とペインコントロールについて理解できる。 3. がん治療に伴う苦痛の緩和について理解できる。 4. がん患者の家族の看護について理解できる。 | | | |
| 授業内容 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的・精神的・社会的・霊的特徴 2) 死にゆく人の心理過程の理解と看護 3) 終末期におけるインフォームドコンセント 4) リビング・ウイル 5) 家族の理解 2. がん患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) がん性疼痛の理解と看護 2) 患者の霊的痛みに対する援助 3) がん治療に伴う苦痛の緩和 3. 家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の家族のアセスメント 2) 予期悲嘆への援助 3) グリーフケア | | | |
| 方法 | | | |
| <p>講義</p> <p>演習</p> | | | |
| 評価 | | | |
| <p>筆記試験</p> | | | |
| その他 | | | |
| <p>終末期の看護については、「死」について考える「いかに生きるか」を考える、看護にとって重要な科目である。この授業が自分自身の死生観を考えるきっかけとなることを期待している。</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 成人看護学演習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、他 | | |
| <p>ねらい</p> <p>成人の急性期にある対象の事例(紙上患者)を用い、看護過程の展開をする能力を養う。また、基礎看護技術を基に基礎から応用へ発展した技術を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴を踏まえ、周手術期にある対象の看護過程の展開が理解できる。 2. 手術後患者の創傷の回復過程・処置について理解できる。 3. 成人期にある対象への個別指導ができる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の看護技術の習得 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人への指導技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別指導 2) 術後の回復を促進する看護技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 創傷処置(ドレーン管理、無菌操作) (2) 早期離床(初回歩行の援助) 2. 成人期の特徴をふまえ、手術療法を受ける患者の事例展開ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける患者の手術前の看護過程(関連図に焦点を当てて) 2) 手術直後の患者の看護過程の展開 <p>方法</p> <p>紙上患者の看護過程の展開 事例患者に対する看護技術の実施</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>レポート、課題、授業参加態度により総合評価 事例展開は形成評価(レポートの中間指導・提出)</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>基礎看護学で学習した内容を原理・原則を活用し対象の条件に合わせて応用していく科目である。成人特有な看護技術としては、臨地実習で必ず経験する技術を取り上げ、校内で実習する。さらに看護過程の展開では、周手術期にある対象を取り上げ、既習学習したことを使って、創造性を駆使し取り組んでいただきたい。</p> | | | |

| | | | |
|-----------|---|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 健康を維持するための看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 健康管理センター 病棟 | | |
| 実習目的 | <p>1. 健康づくりの働きかけと健康維持・増進ができるための方法を学ぶ。</p> <p>2. 生涯セルフコントロールの必要な対象に対して、疾病との共存を図り、セルフケア確立のための援助方法を学ぶ。</p> | | |
| 実習目標 | <p>1. 0次予防、1次予防、2次予防のための援助が理解できる。</p> <p>2. 継続して健康管理ができるための支援を理解する。</p> <p>3. 障害が患者にどのように影響影響しているのか理解できる。</p> <p>4. 患者および家族が状態をどのように受け止め、対処しているのか理解できる。</p> <p>5. 患者の状態に応じた生活指導ができる。</p> <p>6. 患者とその家族の闘病意欲の維持・向上のための援助ができる。</p> <p>7. 社会資源を活用する重要性とその活用方法が理解できる。</p> | | |
| 実習内容 | <p>1. 生活習慣病予防のための保健指導の実際</p> <p>1) 成人期にある対象の健康問題の特徴(健康管理センターを訪れる人々の背景)</p> <p>2) 健康に対する意識を高める働きかけ(健康相談、健康教室、集団指導・個別指導等)</p> <p>3) 健診者自身が健康管理を続けられるような指導の工夫(変化のステージに合わせた支援)</p> <p>2. 健康診査の援助</p> <p>1) 健康診査の目的と内容(検査の種類と内容、問診、診察の援助、健診者への心理的配慮)</p> <p>3. 障害受容のための援助</p> <p>1) 患者の健康障害の部位と程度のアセスメント(障害されている器官、出現している症状、障害されている生理的变化)</p> <p>2) 疾病、治療、今後の生活に対しての受け止めと対処方法(受容までの心理的プロセス:フィンク、コーン、病みの軌跡、ストレス・コーピング、アドヒアランス)</p> <p>3) 患者と家族の気持ちの表出を助ける援助(環境づくり、傾聴、共感)</p> <p>4. セルフコントロールのための援助</p> <p>1) 日常生活の規制と阻害されるニーズ</p> <p>2) セルフコントロールを阻害する因子(年齢、生活習慣、生活リズム、意欲、社会的役割、基礎疾患、感染)</p> <p>3) セルフケア能力のアセスメント(必要とされる知識、学習能力・準備状態、自己管理態度の強さ、学習への動機付け、行動特性・パーソナリティ特性、生きがい、社会的支援)</p> <p>4) 主体性を引き出す生活指導(症状マネジメント、セルフモニタリング、自己効力感、エンパワーメント、アンドラゴジー)</p> <p>5) 家族への協力依頼と指導</p> <p>5. 社会資源の活用</p> <p>1) 経済的支援のための制度</p> <p>2) 地域で行われている支援</p> <p>3) セルフヘルプグループ</p> <p>4) 他職種との連携</p> | | |
| 実習方法 | <p>健康管理センター実習(3日間): 健康管理センターの日課に沿って見学実習をする。</p> <p>病棟実習(2週間): 生涯セルフコントロールの必要な患者を受け持ち、看護過程を展開する。</p> | | |
| 評価 | 実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する) | | |
| その他 | <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「成人看護目的・対象論」、「成人の健康と生活を支える看護」、「周手術期の看護」、「健康障害との共存を支える看護」、「セルフケアを支える看護」、「終末期にある患者の看護」、「成人看護学演習」の履修が必要である。</p> | | |

| | | | |
|-----------|---|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 急性・回復期にある患者の看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| 実習目的 | <p>1. 周手術期患者を通し生体機能が急激に変化している対象に対して、生命維持と苦痛緩和への援助の方法を学ぶ。</p> <p>2. 生体機能の回復を促し、回復状態に合わせた日常生活自立のための援助方法を学ぶ。</p> | | |
| 実習目標 | <p>1. 患者の生命の安全を守るための援助ができる。</p> <p>2. 苦痛の緩和をはかり、阻害されている日常生活充足のための援助ができる。</p> <p>3. 合併症、二次障害の早期発見および予防の援助ができる。</p> <p>4. 障害された機能の回復をはかり、患者のセルフケア確立にむけての援助ができる。</p> <p>5. 患者および家族の心理を理解した援助ができる。</p> <p>6. 社会資源を活用することにより、日常生活行動の自立と拡大をはかることの重要性が理解できる。</p> | | |
| 実習内容 | <p>1. 生命を維持するための援助</p> <p>1) Mooreの術後回復過程と臨床所見</p> <p>2) 呼吸を整える援助(呼吸状態の観察、深呼吸、ネブライザー、喀痰喀出、吸引、酸素吸入等)</p> <p>3) 循環を整える援助(循環動態の観察、保温等)</p> <p>4) 体温を整える援助(体温の観察、保温、クーリング等)</p> <p>5) 麻酔覚醒時の危険防止の援助予防の援助 (意識レベル・麻酔覚醒状況の観察、せん妄・興奮の観察、転落防止、自己抜去)</p> <p>2. 創痛緩和への援助</p> <p>1) 疼痛のアセスメント</p> <p>2) 鎮痛薬の効果と評価</p> <p>3) 疼痛緩和のための援助(呼吸法・咳嗽法の工夫、罨法)</p> <p>3. 術後合併症の予防の看護</p> <p>1) 予測される合併症とそのメカニズム(肺合併症、循環器合併症、イレウス、縫合不全、深部静脈血栓等)</p> <p>2) 術後合併症の徴候の観察(呼吸、循環動態、腹部状態、創傷治癒状況等)</p> <p>3) 術後合併症予防の援助(創傷処置、ドレーン管理、肢位の保持、呼吸訓練、咳嗽法、清潔ケア、床上運動等)</p> <p>4. 早期離床への援助</p> <p>1) 早期離床の効果</p> <p>2) 早期離床の介助(体位変換、床上運動、排泄介助、清潔ケア、歩行指導等)</p> <p>5. ボディイメージの変化の受容と新しい生活様式獲得のための援助</p> <p>1) 機能・形態、能力障害の部位、原因</p> <p>2) 患者の日常生活行動の障害程度</p> <p>3) 機能の変化やボディイメージの変化に対する受容過程(フィンクの危機モデル、コーンの喪失モデル)</p> <p>4) 障害された機能の改善、残存機能の強化をはかるための援助 (実施されている機能訓練の目的と方法、補装具、自助具などの必要性と使用方法)</p> <p>5) 社会復帰に対する患者・家族の受け止めと対処方法</p> <p>6) 社会資源の活用方法</p> <p>7) 退院指導・継続看護</p> | | |
| 実習方法 | <p>手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を展開する。原則として、術前・術後の看護を学習する。受け持ち患者に手術が行われる場合、可能であれば手術中の看護の見学をする。</p> | | |
| 評価 | <p>実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | |
| その他 | <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「成人看護目的・対象論」、「成人の健康と生活を支える看護」、「周手術期の看護」、「健康障害との共存を支える看護」、「セルフケアを支える看護」、「終末期にある患者の看護」、「成人看護学演習」の履修が必要である。</p> | | |

| | | | |
|-----------|--|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 終末期にある患者の看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| 実習目的 | 1. 近い将来死を免れない対象に対し、その人らしい人生の終焉が迎えられるような援助の方法を学ぶ。 | | |
| 実習目標 | 1. 患者の全人的痛みが把握できる。 2. 家族の苦痛が理解できる。 3. 苦痛緩和への援助方法を理解する。 4. 家族への援助がわかる。 5. 緩和治療への援助がわかる。 6. 実習を通して自己の死生観が深められる。 | | |
| 実習内容 | 1. 患者の心理過程理解のためのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 1) 病名・病状の説明内容とその理解 2) 対象に生じている苦痛・不安・恐怖・社会的問題 3) 受容の段階(キューブラ・ロスのモデル) 4) 対象の状態に合わせたコミュニケーション技法(傾聴的態度・共感的態度・受容的態度・支持的態度・対象の意向や要望の代弁・時間の共有・タッチングなど) 2. ペインコントロールの援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 疼痛のアセスメント 2) 鎮痛薬の効果と評価 3) 安楽な体位の工夫 4) 代替療法 3. 希望を支えるための援助(QOLの維持・向上のための援助) <ul style="list-style-type: none"> 1) 基本的欲求充足のための日常生活の援助(食事・排泄・移動・清潔・休息など) 2) 対象の価値・信条・宗教を尊重した援助 3) 対象と家族が望む個別的な援助 4) チームアプローチ(医師・看護師・宗教家・PT・OT・栄養士・ボランティアなど) 4. 治療に伴う苦痛の緩和(放射線治療・化学療法の副作用緩和等) <ul style="list-style-type: none"> 1) 身体症状とその原因 2) 全身倦怠感に対するケア 3) 食欲不振・悪心・嘔吐に対するケア 4) 皮膚症状へのケア 5) 骨髄抑制へのケア 6) その他の身体症状へのケア(脱毛・発熱・便秘・咳嗽・呼吸困難感・浮腫・腹水など) 5. 患者を支える家族の援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 家族の価値観、患者の予後・病状・死別への不安 2) デス・エデュケーション 3) 選択を支える援助 4) 予期悲嘆への援助 5) 危篤時・死後の処置時の援助 6) グリーフケア | | |
| 実習方法 | 終末期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 | | |
| 評価方法 | 実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する) | | |
| その他 | 原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「成人看護目的・対象論」、「成人の健康と生活を支える看護」、「周手術期の看護」、「健康障害との共存を支える看護」、「セルフケアを支える看護」、「終末期にある患者の看護」、「成人看護学演習」の履修が必要である。 | | |

| | | | |
|--|--------------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 老年看護目的・対象論 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(15時間) |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) | | |
| <p>ねらい</p> <p>高齢者は豊富な人生体験と実績をもった存在であるとともに、加齢による生理的機能低下や精神的変化、社会生活上の役割の変化をきたしていく対象である。その対象を多面的に理解し、QOLの向上をはかりその人らしい生活を送るための看護の役割について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の対象の特性が理解できる 2. 老年看護の変遷をふまえ、老年看護の目的が理解できる 3. 老年看護の役割と機能が理解できる 4. 高齢者の生活適応を阻害する諸要因について形態的・機能的変化から総合的に理解できる 5. 高齢者を敬い尊重する態度を養う <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期を生きる人々の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフサイクルからとらえる 2) 老年期における発達課題からとらえる 3) 加齢に伴う形態的・機能的変化と生活への影響 4) 加齢に伴う精神的・社会的変化と生活への影響 5) 老年人口と社会文化的な影響 2. 高齢者ケアと制度の変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の健康保健統計 2) 高齢者医療対策 <ul style="list-style-type: none"> ・老人保健法、後期高齢者医療制度 3) 老人福祉対策 <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉法、ゴールドプラン 3. 高齢者の生活と倫理的課題 4. 老年看護の概念 <p>方法</p> <p>講義、健康な高齢者と関わりテーマに沿ったグループワーク演習、老人体験モデル装着</p> | | | |
| 評価 筆記試験 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---|--------------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 高齢者の健康と生活を支える看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) | | |
| <p>ねらい</p> <p>高齢者に起こりがちな変化や障害について理解を深め、健康維持・増進や障害の予防について学習する。本科目では、老化に伴う機能変化が及ぼす影響を日常生活機能の変化に関連させ生活機能の観点からアセスメントする意味を学習する。高齢者の生活を支える看護がQOLへつながることを学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康と日常生活を支える看護が理解できる 2. 長期臥床状態にある高齢者の看護が理解できる <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康と日常生活を支える看護 (20h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活機能のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活動作(ADL) (2) 手段的日常生活動作(IADL)の評価の実際と活用 2) 日常生活の援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食・栄養を整える援助 (2) 排泄能力を整える援助 (3) 清潔・身だしなみを保持する援助 (4) 運動機能を保持する援助 (5) 良眠を促す援助 (6) 介護者・家族への対応技術 2. 健康寿命延伸のための看護 (10h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃用症候群リスクをもつ高齢者の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 四肢の運動機能と摂取・嚥下機能(3) 家族関係調整 (2) 機能低下が及ぼす生活への影響 ・転倒、骨折 ・ひきこもり ・誤嚥性肺炎 2) 生活機能の向上に必要な援助 <p>授業方法 講義</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>高齢者の健康な日常生活を支えるための看護と他の分野を関連させて活用し、学びを深める。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 健康障害のある高齢者の看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) | | |
| <p>ねらい</p> <p>障害をもちながら生活する高齢者を支える看護、QOLを高める看護の方法を学習する。ここでは、高齢者におきやすい運動機能障害、感覚機能障害、脱水、せん妄、認知症などを取り上げ、人生の終焉を向かえる高齢者のその人らしい最期が迎えらるるための看護を学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害をもつ高齢者の看護が理解できる 2. 治療を受ける高齢者の看護が理解できる 3. 終末期にある高齢者と家族を支える看護が理解できる <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に多い症状・障害の理解と看護 (14h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 感覚機能に障害がある高齢者への看護 2) 認知症のある高齢者への看護 3) コミュニケーション障害のある高齢者への看護(失語・構音障害等) 4) 脱水のある高齢者への看護 4) せん妄・うつ症状のある高齢者への看護 3. 治療を受ける高齢者の看護 (8h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来、入院、退院時の看護への看護 2) 検査・手術療法を受ける高齢者への看護 3) 薬物療法を受ける高齢者への看護 4. 終末期を迎える高齢者と家族を支える看護 (6h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の死生観 2) 介護を受けている高齢者の介護者への思い 3) 高齢者が望む終末期とは 4) 終末の高齢者とその家族への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 安楽への援助 (2) 生きるエネルギーを活性化する援助 (3) 介護をしている家族への支援 <p>方法</p> <p>講義 終末期の事例を用いたロールプレイ演習</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>老化に伴う健康障害のある高齢者が、自分らしく生きられるような関わるためにどのような看護が必要かを学ぶ。老年期における終末期のあり方と家族への支援とはどのようなものかを考え自己の老年観を養う。</p> | | | |

| | | | |
|--|---|--------------------|------------|
| 授業科目(必須) | 老年看護学演習 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位 (30時間) |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 老年看護実習ガイド (照林社) | | |
| <p>ねらい</p> <p>高齢者の健康維持・増進や障害の予防、障害を持ちながら生活をする高齢者を支える看護の技術を習得する。高齢者の特徴をふまえ、慢性期にある患者の事例展開ができる。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護技術が理解できる 2. セルフケア不足の高齢者への看護技術が理解できる 3. 慢性に経過している高齢者の看護過程の展開が理解できる <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下障害をもつ高齢者への看護技術 (準備体操、口腔ケア、アイスマッサージ、嚥下食、摂食嚥下時の援助など) 2. 高齢者への適切な口腔ケア (体位、物品、義歯の取り扱い方など) 3. セルフケア不足の高齢者への看護技術 (移乗、歩行介助など《片麻痺などの運動障害や視力障害など障害に応じた援助》) (片麻痺 失行などの障害を持った高齢者への更衣・清潔ケアなど) (排泄に関する観察、トイレ誘導、オムツ使用時の援助など) 4. 慢性に経過している高齢者の看護過程の展開 <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・摂食嚥下の準備体操、口腔ケア、アイスマッサージ法の演習 ・片麻痺などの運動障害や視力障害のある高齢者への移乗、歩行介助の演習 ・オムツ交換の演習 ・看護過程の展開の演習 | | | |
| 評価 | 演習課題 | (評価基準は別に定め事前に説明する) | |
| <p>その他</p> <p>既習の学習をもとに学ぶ。授業内容1～3は主に実習室で高齢者への看護で特徴的な看護の技術を学ぶ。授業内容4は高齢者の看護過程の展開を通して、高齢者に必要な、あるいは特徴的な看護を統合できることを目的とする。</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 様々な場で生活する高齢者の看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 地域、高齢者支援対策関連施設、東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| <p>実習目的</p> <p>様々な健康段階にある高齢者に対し、取り巻く環境の中で高齢者がその人らしく心豊かに日々を送るための援助の方法を学ぶ</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の機能低下に応じたコミュニケーションができる。 2. 加齢に伴う変化や、疾病・障害を持ちながら生活している高齢者を理解する。 3. 高齢者の状態に合わせて看護上の問題の優先度を考え、具体的に看護計画を立案できる。 4. 立案した看護計画に沿って実施・評価できる。 5. 地域における様々な高齢者サービスの役割や機能を理解する。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者と関係性の構築 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の関わり方 2) 機能低下に応じたコミュニケーションの方法 2. 高齢者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢による生理的変化の特徴 2) 加齢に伴う生理機能の低下が及ぼす各種検査・治療への影響 3) 対象の生活史と価値観 4) 加齢・疾病治療に対する受け止め 5) 治療や環境の変化に対しての適応状態の観察 6) 対象の生活機能のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) フィジカルアセスメント 2) 日常生活動作のアセスメント(ADL・IADL) 3) メンタルアセスメント 3. 高齢者の看護過程の展開 4. 地域における高齢者サービス <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者支援対策関連の施設の事業内容や役割、具体的なサービス内容 <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者患者を1名受け持ち看護過程を展開する。 2) 実習を通して、高齢者への看護の役割と多職種との連携のあり方を考える。 3) カンファレンスにおいて、高齢者の特性、受け持ち患者の疾患・症状・援助など理解を深める。 4) 高齢者の住む地域の環境を調べ、高齢者のケアニーズや各サービスの必要性や役割を学ぶ。 5) 高齢者福祉施設を見学し、施設の目的や活動状況について知る。 | | | |
| 評価 | | | |
| 実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する) | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---|------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 健康障害のある高齢者の看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| <p>実習目的</p> <p>老年看護分野の講義演習で学んだ理論、知識、技術を統合させ実践に応用し、老年看護の基礎的実践能力を養う。高齢者の心身の特性および健康レベルの多様性について理解し、高齢者の健康・生活状態と家族を包括的にアセスメントする。さらに、高齢者と取りまく環境との関係について理解し、高齢者がその人らしく心豊かに日々を送るために必要な看護について考える。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や障害をもちながら生活している高齢者が理解できる。 2. 高齢者の生活機能のアセスメントが理解できる。 3. 障害のある高齢者の主な症状、検査、治療に対する援助を理解し、看護計画が立案できる。 4. 高齢者の機能低下に応じたコミュニケーションができる。 5. 高齢者のもてる力を活用した日常生活の援助ができる。 6. 高齢者が退院後も安全で心豊かに生活できるための継続ケアの必要性がわかる。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある高齢者の特性理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病、治療、検査 2) 受け持ち患者の生活史と価値観 3) 加齢、疾病治療に対する受け止め方 2. 治療や環境の変化による合併症や二次的障害を最小限にするための援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者が混乱や不適応状態に陥ることなく、回復に向かえるような援助 2) 合併症や二次的障害を予防するための援助 3) 高齢者の持てる力を活かした生活行動への援助 4) 終末期にある高齢者および家族への援助 3. 退院後、必要となるケアの継続と連携のための援助 <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 2) 検査、処置など見学し、ナースと共に援助を行う。 | | | |
| 評価方法 | | | |
| 実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する) | | | |
| <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程の展開の基礎実習」「老年看護目的・対象論」、「高齢者の健康と生活を支える看護」、「健康障害のある高齢者の看護」、「老年看護学演習」の履修が必要である。</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必修) | 小児看護目的・対象論 | 担当教員 | |
| 対象学年・開講時期 | 2年前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 | | |
| <p>ねらい</p> <p>絶えず成長、発達をしている子どもの特徴とそれらに影響を及ぼす諸因子を理解する。現代の子どもと家族の概要をとらえながら子どもと家族の最善の利益を守るための小児看護の役割について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達を理解する。 2. 成長発達において、個人差として経過を観察するもの、看護援助を必要とするもののアセスメントの視点を理解する。 3. 小児が基本的な生活習慣を身に付ける過程と、小児への関わりかたについて理解する。 4. 親子関係、小児にとっての家族の役割と望ましい家族関係について理解する。 5. 日本の小児の現状(統計)と小児に関する保健施策について理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の目的 2) 小児看護の特徴 ①出生と家族 ②子どもの死亡 3) 小児看護の場 4) 小児看護の変遷 5) 小児看護における倫理 ①子どもの権利 ②小児における倫理 6) 小児看護理論 2. 小児の形態的、機能的、心理・社会的発達と家族 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児期の分類 2) 小児の成長・発達 3) 成長・発達の評価 4) 小児の特徴 5) 小児各期の成長発達 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期 (4) 思春期 3. 各発達段階における養育 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の栄養 2) 小児の遊び 3) 事故防止 4) 育児支援 5) 小児と社会 ①児童福祉 ②母子保健 ③医療支援 4. 小児保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 予防接種 2) 学校保健 5. 現代社会における小児の諸問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児と生活習慣病 2) 小児と事故 3) 児童虐待 <p>方法</p> <p>講義 演習</p> | | | |
| <p>評価方法</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必修) | 小児の健康と成長発達を促す看護 | 担当教員 | |
| 対象学年・開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 | | |
| <p>ねらい</p> <p>子どもの成長・発達と健康の支援について、各期の特徴的な事象を中心に理解する。小児看護に必要な代表的な疾患の病態・治療・検査について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児とその家族への成長・発達を促す看護を理解する。 2. 小児に生じやすい疾病・障害の成り立ちを理解する。 3. 小児に生じやすい疾病・障害の治療・検査を理解する。 4. 小児に幼児やすい疾病・障害の症状の経過・予後を理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児における健康の保持・増進、成長・発達を促すための援助 (8h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児の健康増進のための援助 2) 幼児の健康増進のための援助 3) 思春期の小児の健康増進のための看護 4) 小児の発達段階と日常生活行動への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活援助技術 (2) 遊びと学習の援助 (3) 気になる症状と看護(夜泣き・夜尿・指しゃぶり・言葉のおくれ・等) (4) プレパレーション 2. 小児に生じやすい疾病障害 (22h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 出生前の疾患 2) 新生児 3) 消化器疾患 4) 呼吸器疾患 5) 循環器疾患 6) 悪性新生物 7) 泌尿器、生殖器疾患 8) 神経、運動器疾患 9) 内分泌疾患 10) 成長障害 11) リウマチ熱、膠原病 12) 代謝性疾患 13) 免疫、アレルギー疾患、血液疾患 14) 感染症 15) 真菌感染症 16) 川崎病 17) 寄生虫疾患 18) 皮膚疾患 19) 精神障害、行動異常 <p>方法</p> <p>講義 グループワーク</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>課題提出・筆記試験(課題の評価基準については授業で説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必修) | 健康障害のある小児の看護 | 担当教員 | |
| 対象学年・開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 | | |
| <p>ねらい</p> <p>健康障害のある小児の看護が行われる場の環境や、病児の日常生活援助について学ぶ。また、健康障害の段階それぞれの時期に起こる様々な問題や課題に対応できる看護に必要な知識、技術、態度について学ぶ。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を障害された小児の特徴と看護を理解する。 2. 様々な状況にある小児の特徴と看護の方法を理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を障害された小児の看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の健康障害と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児の健康障害とは (2) 主要症状と看護 ①発熱 ②痛み ③呼吸困難 ④脱水 ⑤嘔吐 ⑥便秘 ⑦下痢 2) 病気に対する児の反応 ①病気の理解 ②ストレスとコーピング 3) 病気が児に与える影響 4) 小児の健康障害と母親、家族 2. 様々な状況にある小児の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来における小児の看護 2) 入院している小児の看護 3) 検査や処置を受ける小児の看護 4) 活動制限が必要な小児の看護 5) 隔離が必要な小児の看護 6) 手術を必要とする小児の看護 7) 虐待を受けた小児の看護 8) 経過および状態にあわせた小児の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 急性期にある小児の看護 (2) 慢性期にある小児の看護 (3) 予後不良にある小児の看護 8) 救急処置が必要な小児の看護 9) 障害を持つ小児の看護 <p>方法</p> <p>講義、演習、グループワーク</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必修) | 小児看護学演習 | 担当教員 | |
| 対象学年・開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 | | |
| <p>ねらい</p> <p>事例を用いて看護過程を展開し、子どもとその家族を対象とした援助技術について理解する。また、健康障害をもつ子どもとその家族に必要な効果的な看護を展開するための技術を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護に必要な看護技術について、小児の成長発達にあわせた実施方法を理解する。 2. 事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開が理解できる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) フィジカルアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 呼吸・循環・体温・血圧の測定 (2) 身体計測(身長・頭囲・胸囲) 2) 日常生活援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児のベッド周囲の環境調整 (2) 清潔の援助 (3) 食事の援助 (4) 排泄の援助 (5) 休息の援助 3) 診察・検査・処置に伴う技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 腰椎穿刺 (2) 採尿 (3) 抑制 (4) 固定法(診察時・吸入時・採血・皮下注射時) (5) 点滴静脈内注射の管理(シーネ固定)等 2. 看護過程の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例に応じた病態、一般的な検査治療看護、発達段階の理解 2) 関連図の作成 3) 情報の整理 4) アセスメント 5) 全体像の把握 6) 看護の方向性 7) 看護問題の抽出 8) 期待される結果 9) 解決策の立案 10) 実施と評価 <p>* 事例は気管支喘息、肺炎、川崎病など</p> <p>方法</p> <p>講義 看護過程の演習のグループワーク 小児看護技術の学内実習(バイタルサイン測定などの看護技術、レポート)</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>レポート・演習課題(演習の評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>健康に障害のある小児の看護について、事例を用いて看護過程を展開します。既習の知識を統合させ、児の特徴(発達・生活背景・病態)看護を考え、具体的に考えた指導内容、子供に必要な遊び(おもちゃの使用)などについて学習をします。</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必修) | 健康な成長発達を促す援助実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年・開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(45時間) |
| 実習場所 | 新宿区立保育園・学童保育クラブ 等 | | |
| <p>実習目的</p> <p>健康な子どもの成長発達を理解し、成長発達を促す援助の基本を学ぶ。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な乳幼児・学童期の成長発達の特徴を理解する。 2. 各成長発達段階に応じた保育の特徴と援助方法がわかる。 3. 子どもの心身の成長発達には個人差があることがわかる。 4. 子どもの安全がどのように守られているか理解する。 5. 保育の実際の中で、健康な子どもと積極的に触れ合い、子どもとコミュニケーション・遊びなどの関わりが実践できる 6. 保育園・学童クラブと家庭との連携について理解できる。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 形態的発育、機能的な発達 2) 乳幼児の精神・運動機能、言語、社会性、知的能力の発達 3) 乳幼児・学童のコミュニケーションの特徴 4) 年齢に応じた遊び 5) 基本的な生活習慣の援助 6) 子どもを尊重した働きかけ 7) 環境整備、危険防止対策及び子どもに対する安全への配慮 8) 保育施設と家庭との連携 <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園で1週間の実習をおこなう。 2. 0～5歳時の各発達段階のクラスで健康乳幼児の保育に参加し、年齢による違いや個人差を知り、学習した内容をレポートする。 3. 新宿区内の学童保育クラブ等を見学し、レポートする。 | | | |
| <p>評価</p> <p>実施内容、記録物、で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|---|--------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必修) | 健康障害のある小児の看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年・開講時期 | 3年次 | 単位数(時間) | 1単位(45時間) |
| 実習場所 | 小児科病棟、外来、重症心身障害児施設 | | |
| <p>実習目的</p> <p>健康障害のある小児及び家族を理解し、成長・発達に適した援助の実際を学ぶ。</p> <p>小児の健康保持・増進のための援助の実際を学ぶ。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある小児とその家族の特徴と援助の必要性が理解できる。 2. 対象の問題状況と成長発達に応じた援助が理解できる 3. 子どもの安全を守るための援助が理解できる。 4. 保健・医療・福祉・教育の連携について理解できる。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害のある小児の特徴と小児の身体的、精神的、社会的な発達と援助 2)健康障害の種類 健康の段階の理解と援助 3)健康障害と日常生活の援助 4)障害された機能をととのえるための援助 5)治療(安静、薬物、食事、手術)処置、検査 6)診察時の援助 7)健康障害、入院が小児及び家族に及ぼしている影響 <p>実習方法</p> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児病棟において、一人の患児を受け持ち、看護過程を展開し小児看護の実際を学ぶ。 <p>【外来実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来において、診察の援助、検査・処置の援助、乳幼児健診、予防接種時の援助を体験し、学習した内容をレポートする。 <p>【重症心身障害児施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設において、障害を持つ小児の療育の実際を体験し、学習した内容をレポートする。 | | | |
| <p>評価</p> <p>実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程の展開の基礎実習」、「小児目的・対象論」、「小児の健康と成長発達を促す看護」、「健康障害のある小児の看護」、「小児看護学演習」、「健康な成長発達を促す援助実習」の履修が必要である。</p> | | | |

| | | | |
|---|--|---------|-----------|
| 授業科目 | 母性看護学目的・対象論 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護 (メヂカルフレンド社) | | |
| <p>ねらい</p> <p>母性看護は、子どもを産み育てることの援助のみにとどまらず、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに基づき、女性の幸せと幅広い活躍を支援する看護である。本科目は母性看護学を学ぶ出発点として位置づけ、母性看護の変遷や動向、理論、社会状況などの側面から看護の役割を理解し生命倫理、生命尊重の意味について考える機会とする。また、自己の中にある母性・父性について関心を深める学習内容である。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護に関連する概念を理解し、母性看護の役割を理解する。 2. 母性看護にかかわりの深いセクシュアリティ(性)について理解する。 3. 母子保健の動向と、母子保健施策を理解する。 4. 母性に関連する倫理的問題を理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の概念と看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護に関連する概念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 母性・父性の概念 (2) 母性・家族の発達 (3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2) 母性看護の対象と看護の役割 3) 母性看護に関連する理論 4) 母性看護における倫理問題 2. セクシュアリティ <ol style="list-style-type: none"> 1) セクシュアリティの概念 2) セクシュアリティの特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 解剖学的特徴 (2) 性役割 (3) 性機能 3. 母性の健康と社会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子保健の動向 2) 母子保健に関わる法律・諸制度 3) 母子の健康支援施策 4. 母子保健をめぐる課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 児童虐待と親子関係 2) 10代の性の問題 3) DV <p>方法 講義</p> | | | |
| 評価 筆記試験 課題(課題の評価基準は別に定め事前に説明する) | | | |
| その他 | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|---------|-----------|--|---|-------|--|---|-------|
| 授業科目 | 女性の健康と看護 | 担当教員 | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | | | | | | |
| 教科書等 | 新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護 (メヂカルフレンド社) | | | | | | | | |
| <p>ねらい</p> <p>周産期に限定せず、母性としての特性を身体的・心理的・社会的に理解し、母性に影響を与える健康問題と健康生活を営むために必要な看護を理解する。そして、ライフサイクル各期の対象の次世代育成力の保持増進、疾病予防、健康回復過程における看護の実際を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期以外の女性の各ライフサイクルの身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 2. 各ライフサイクルにおける、健康問題と健康教育・保健指導を理解する。 3. 妊娠、分娩、産褥の経過と胎児の健康状態を理解する。 4. 妊娠、分娩、産褥のハイリスク及び正常逸脱状態の治療および対処方法を理解する。 <p>授業内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期以外の女性の各ライフサイクルの身体的、心理的、社会的特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期 2. 各ライフサイクルにおける健康問題と健康教育・保健指導 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性教育と性感染症 2) 不妊 3) 更年期障害 4) 健康障害の性差 3. 正常な周産期の経過 (20h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠の経過 2) 分娩経過 3) 胎児の健康状態 4) 産褥経過 4. ハイリスク及び正常逸脱状態の病態・治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 流早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 常位胎盤早期剥離、前置胎盤 4) 胎児仮死、死産 5) 糖尿病合併妊娠 6) 帝王切開術 7) 分娩時異常出血 8) 産褥感染 </td> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">} </td> <td style="width: 25%; vertical-align: middle;">(10h)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">} </td> <td style="vertical-align: middle;">(20h)</td> </tr> </table> <p>方法 講義 グループワーク</p> | | | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期以外の女性の各ライフサイクルの身体的、心理的、社会的特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期 2. 各ライフサイクルにおける健康問題と健康教育・保健指導 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性教育と性感染症 2) 不妊 3) 更年期障害 4) 健康障害の性差 3. 正常な周産期の経過 (20h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠の経過 2) 分娩経過 3) 胎児の健康状態 4) 産褥経過 4. ハイリスク及び正常逸脱状態の病態・治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 流早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 常位胎盤早期剥離、前置胎盤 4) 胎児仮死、死産 5) 糖尿病合併妊娠 6) 帝王切開術 7) 分娩時異常出血 8) 産褥感染 | } | (10h) | | } | (20h) |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期以外の女性の各ライフサイクルの身体的、心理的、社会的特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期 2. 各ライフサイクルにおける健康問題と健康教育・保健指導 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性教育と性感染症 2) 不妊 3) 更年期障害 4) 健康障害の性差 3. 正常な周産期の経過 (20h) <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠の経過 2) 分娩経過 3) 胎児の健康状態 4) 産褥経過 4. ハイリスク及び正常逸脱状態の病態・治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 流早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 常位胎盤早期剥離、前置胎盤 4) 胎児仮死、死産 5) 糖尿病合併妊娠 6) 帝王切開術 7) 分娩時異常出血 8) 産褥感染 | } | (10h) | | | | | | | |
| | } | (20h) | | | | | | | |
| 評価 | 筆記試験 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |

| | | | |
|--|--|---------|-----------|
| 授業科目 | 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(医学書院) 系看専門分野Ⅱ 母性看護学各論(医学書院) 写真でわかる母性看護技術 (インターメディカ) | | |
| <p>ねらい 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的特徴および家族への理解を深める。また、母性機能の健全な発達や母子の安全を守る看護のあり方、および特徴的な周産期の看護技術について学ぶ。</p> <p>目標 1. 正常な経過をたどる妊婦の看護を理解する。 2. 妊娠中のマイナートラブル・ハイリスクに対する看護を理解する。 3. 分娩各期の看護を理解する。 4. 褥婦の看護を理解する。 5. 新生児の看護を理解する。</p> <p>授業内容 1. 正常な経過をたどる妊婦の看護 (8h) 1)妊婦の心理・社会的な変化とそれを支える保健指導 2)マイナートラブルへの対処 3)ハイリスク妊婦への看護 2. 産婦の看護 (6h) 1)分娩各期の看護の要点 2)産婦と家族の心理 3)分娩異常、産科処置と看護 3. 褥婦の健康を促す看護 (8h) 1)褥婦と家族のアセスメント 3)産褥期の心理と看護 4)母乳育児を支える看護 5)褥婦への保健指導 6)産褥期の異常と看護 4. 新生児の看護 (8h) 1)新生児の生理 2)新生児のアセスメント 3)新生児の基本的ケア 4)異常を予防する看護</p> <p>方法 講義 VTR視聴 グループワーク</p> <p>評価 筆記試験</p> <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|---|--|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 母性看護学演習 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 新体系 看護学全書 母性看護学 ①母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護 ②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社) 写真でわかる母性看護技術 (インターメディカ) | | |
| <p>ねらい</p> <p>妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の変化は生理的な現象ではあるが、容易に異常に傾き急変しやすいという特徴をもっている。これらを健康期の看護と同様に、潜在的な問題や、予測される問題を解決するための看護を、ウェルネス(より良い状態へ導く)という視点から考える。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の看護技術を理解する 2. 分娩期の産痛緩和のための看護技術を理解する 3. 産褥期・新生児期の看護技術の基本を理解する 4. 褥婦・新生児の看護過程が理解できる <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦に対する看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1)レオポルド触診法・胎児心音聴取 など 2. 産婦に対する看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1)産痛緩和の補助動作・呼吸法 2)安楽な体位 3. 褥婦に対する看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1)子宮底の観察 2)乳房の観察とマッサージ 3)産褥体操 4. 新生児に対する看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1)バイタルサイン、計測 2)抱き方、授乳 3)おむつ交換 4)沐浴 など 5. 褥婦・新生児に対する看護過程の展開 <p>方法</p> <p>シュミレーション・モデル人形を使用した演習 ペーパーシュミレーションによる事例展開 ロールプレイ</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>授業・演習の参加度 課題・レポート (評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|---|---------------------------|---------|-----------|
| 授業科目 | 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護実習 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 産婦人科外来 5西病棟 | | |
| <p>実習目的</p> <p>講義や学内実習で学んだ知識・技術を統合し、妊産褥婦と新生児およびその家族の理解を深める。また対象者の健康の保持増進を目指し新しい環境に適応するための看護実践の基礎的能力を習得する。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦・早期新生児の正常な経過を理解する。 2. 妊産褥婦・早期新生児に対する看護の必要性を理解する。 3. 早期新生児の基本的ケアの実践能力を習得する。 4. 褥婦のセルフケア能力の向上を目指した看護実践の基礎的能力を養う。 5. 母子関係確立への援助を通し自己の母性観・父性観を養う。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦の看護 2. 産婦の看護 3. 褥婦・新生児の看護 <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産科外来で妊婦健診のために来院した妊婦を数名受け持ち、一連の診療・保健指導に同行する 2. 分娩第Ⅰ期～Ⅳ期の助産師の助産活動に参加する 3. 1名の新生児を受け持ちアセスメント～基本的ケアの実践を体験する 4. 1～2組の褥婦・新生児を受け持ち、マタニティ診断に基づき必要な看護を実践する | | | |
| <p>評価</p> <p>実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「母性看護目的・対象論」、「女性の健康と看護」、「妊娠・分娩・産褥・新生児の看護」、「母性看護学演習」の履修が必要である。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 精神看護目的論 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(15時間) |
| 教科書等 | 精神看護学 I II (ヌーベル ヒロカワ) | | |
| <p>ねらい</p> <p>現代社会は精神的ストレスに満ちた社会であり、精神保健が重要性を増している。また、災害被災者や事故・事件等の被害者への心のケアは身近な問題としてとらえられるよう国民意識の変化も求められている。ひとり一人が、その人らしく生きてゆくことを支援するために必要な精神看護の基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の基本的概念を理解する。 2. 心の発達について理解する。 3. 精神看護の役割と機能を理解する。 4. 精神看護の関連理論を理解する。 5. 精神保健活動の制度とシステムを歴史の変遷をふまえ理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の基本的概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心(精神)の健康とは 2) 精神保健とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神保健のカプランの考え方 (2) 精神的健康の考え方 3) 精神看護とは 4) 精神障害者の定義・障害モデル 2. 心の発達 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心の構造 <ol style="list-style-type: none"> (1) エゴ・自我・超自我 (2) 自我の強さ(成熟の指標) 2) 不安と防衛機制 3. 精神看護の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者－看護者の治療的関係の成立 2) 日常生活行動の自立へ援助 3) 家族支援 4) 社会資源の活用とネットワーク 5) 基本的人権の擁護 6) リスクマネジメント など 4. 精神看護学の関連理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) セルフケア理論 2) オレム・アンダーウッドのセルフケア理論 3) 対人関係理論 5. 精神保健活動の制度とシステム <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健活動の動向 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神保健福祉法 理念 基本的な考え方 (2) 現代社会の精神保健に関する国の施策 (3) 精神保健関連施設 (4) 精神保健関連スタッフ 2) 精神保健医療に関わる法制度の変遷 6. 精神看護の歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の精神医療看護の歴史 2) 日本の精神医療の現状と課題 <p>方法</p> <p>講義、グループワークなど</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 精神看護対象論 | 担当教員 | 臨床医師 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 | 単位数(時間) | 1単位(15時間) |
| 教科書等 | 精神看護学 I II (ヌーベル ヒロワ) | | |
| <p>ねらい</p> <p>心の健康を脅かす要因と仕組みを理解し、現代社会に起こりやすい代表的な精神の疾患、症状の病態や、検査、治療について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康について理解する。 2. ストレスと危機的状況およびライフサイクルの各期における不適応問題を理解する。 3. 精神機能の障害(疾病、症状、治療、検査)について理解する。 4. 精神機能と代表的な精神障がいについて理解する。 5. 精神機能の障害のある対象の検査、治療について理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康 <ol style="list-style-type: none"> 1)心の健康と不健康 <ol style="list-style-type: none"> (1)正常と異常 (2)平均標準概念 2)心の健康と環境 <ol style="list-style-type: none"> (1)生活の場(家庭)と心の健康 (2)教育の場(学校)と心の健康 (3)就労の場(職場)と心の健康 2. ライフサイクルにおけるストレスと危機的状況 <ol style="list-style-type: none"> 1)成長発達段階(ライフサイクル)と危機 <ol style="list-style-type: none"> (1)乳幼児期—分離不安 など (2)学童期—場面黙認 など (3)思春期・青年期—価値観や人生観の変化など (4)壮年期—うつ状態 など (5)老年期—予備能力、適応力の低下 など 2)状況的危機状態にある人の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1)疾病、事故、死 など (2)入学、昇進、結婚 など 3. 精神機能の障害(疾病、症状、治療、検査) <ol style="list-style-type: none"> 1)精神疾患の理解に必要な脳の機能と構造 <ol style="list-style-type: none"> (1)脳の構造 (2)ニューロンとシナプスの働き 2)神経伝達物質と神経系 <ol style="list-style-type: none"> (1)脳内アミンの働き 3)精神科の臨床診断の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1)精神障害の分類(DSM-IV) (2)精神病という概念 4)代表的な精神障害 <ol style="list-style-type: none"> (1)心因性精神障害:うつ病 (2)内因性精神障害:統合失調症、躁うつ病 (3)外因性精神障害:器質性精神病、症状精神病 (4)精神作用物質に関連した精神障害:薬物依存 4. 精神機能の障害のある人の主な検査、治療 <ol style="list-style-type: none"> 1)検査 <ol style="list-style-type: none"> (1)脳波検査 (2)心理検査 (3)記銘力検査 (4)人格検査 2)身体への治療 <ol style="list-style-type: none"> (1)薬物療法 (2)電気けいれん療法(無けいれん療法) 3)内面への働きかけの治療 <ol style="list-style-type: none"> (1)精神療法 (2)精神分析および力動精神療法 (3)認知行動療法 (4)作業療法 (5)レクリエーション療法 4)環境への働きかけの治療 <ol style="list-style-type: none"> (1)環境療法 (2)治療共同体 <p>方法</p> <p>講義</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>精神面の健康状態が不安定な人や精神機能に障害のある人を偏見や差別でとらえることなく、ストレスや疾病の理解を正しくすることが看護の第一歩です。現代社会の精神の健康問題については、日頃より新聞やテレビ、雑誌などに興味、関心を持って欲しいです。</p> | | | |

| | | | |
|---|------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 心の健康を支える看護 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 精神看護学 I II (ヌーベル ヒロカワ) | | |
| <p>ねらい</p> <p>心の健康の保持、増進の援助や心の健康状態を対象が現実を見つめ環境に適応し、その人らしく生活を送れるよう援助する。具体的には、対人関係の成立を基盤に観察、コミュニケーション、日常生活援助、社会資源の活用などの援助の方法について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスと対処行動について理解する。 2. ライフサイクルと精神保健の不適応について理解する。 3. 生活の場と精神保健について理解する。 4. 精神看護の基本的援助について理解する。 5. 精神保健の段階における看護について理解する。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスと危機介入 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対処行動 2) ストレスと精神保健 3) 危機理論 4) 各期の特徴と危機介入 2. 生活の場と精神保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族、家庭 2) 学校 3) 職場 3. 基本的援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション 2) 観察 3) 日常生活行動のセルフケアアセスメント 4. 治療に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団精神療法と看護 2) 生活技能訓練 (SST) と看護 3) 行動療法と看護 4) 精神看護と人権擁護 5. 精神の健康段階における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性精神症状のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療的環境と保護 (2) 向精神薬の確実な投与 (3) 鎮静と休息を促すコミュニケーション など 2) 回復経過を経る患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 不安、焦りに対するコミュニケーション (2) 日常生活行動拡大に向けた援助、服薬指導 (3) 生活技能訓練や集団精神療法と援助 など 3) 慢性的経過を経る患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活行動の維持、自立に向けた援助、服薬指導 など (2) 地域との連携 など <p>方法</p> <p>講義、グループワークなど</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>筆記試験</p> | | | |
| <p>その他</p> | | | |

| | | | |
|--|------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 精神看護学演習 | 担当教員 | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 | 単位数(時間) | 1単位(30時間) |
| 教科書等 | 精神看護学 I II (ヌーベル ヒロカリ) | | |
| <p>ねらい</p> <p>心の健康の保持増進のための援助技術を学ぶ。さらに、看護場面の再構成やロールプレイングを通して、治療的コミュニケーションの基本的な方法や活用する理論を学ぶ。精神科病棟で入院患者が多い統合失調症の患者をとりあげ看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者－看護師関係を成立させる構成因子を理解する。 2. 治療的コミュニケーションの基本的方法がわかる。 3. 精神看護に必要な基本的な援助技術を理解する。 4. 精神に障害のある対象の看護過程の展開が理解できる。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者－看護者関係の成立に必要な看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション 2) ロールプレイング 3) 看護場面の再構成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護場面の再構成を用いた事例検討 2. 精神の安寧のための援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーション 2) リラクゼーション <ol style="list-style-type: none"> (1) 自律神経とストレス (2) マッサージの実際 3. 看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) セルフケア理論を用いた事例展開 (統合失調症) <p>方法</p> <p>講義、ロールプレイング、グループワーク、ペーパーシュミレーションによる事例展開</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>レポート 演習課題 (レポート,演習の評価基準は別に定め事前に説明する)</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>心の安楽のための援助技術は、あらゆる対象の精神面の健康の保持増進の方法として習得して欲しい。さらに臨地実習で、患者との関わりを振り返り、患者－看護者関係を成立させる構成因子がわかり、自己理解、他者理解に役立てられるような自己洞察力を高める。</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------------|---------|-----------|
| 授業科目(必須) | 精神障害のある人の看護実習 | 担当教員 | 専任教員 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | 単位数(時間) | 2単位(90時間) |
| 実習場所 | 地域精神保健福祉施設(1週間) 精神科病棟(2週間) | | |
| <p>実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する精神障害者の社会参加の実態にふれることを通じて、地域生活支援についての理解を深め、支援の方法を学ぶ。 2. 精神を病む人との対人関係を発展させるための方法を活用し、看護をおこなうために必要な基礎知識、技術、態度を習得する。 <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象との対人関係において、自己理解を深めるとともに関わりの振り返りを通して、対象理解、状況理解ができる。 2. 障害者総合支援法に基づく地域社会復帰施設の役割、機能を理解する。 3. 精神の健康問題をもつ患者の疾病、精神症状、検査、治療について理解する。 4. 対象のセルフケア能力をアセスメントし、その能力の維持と向上に向けて必要な援助方法を理解する。 5. 人権を擁護し、対象の安全を守るための援助を理解する。 6. 地域精神保健における生活自立や社会参加に向けての支援の方法を理解する。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人関係形成の展開、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、受容、傾聴、共感的理解、空間距離、タッチングなどの治療的コミュニケーション技術、看護場面の再構成(自己知覚と自己表現) 2. 精神保健福祉法、障害者総合支援法の法的位置づけ、スタッフの職種と役割、通所者の日常生活能力、社会生活能力、精神機能力の程度、病院や保健センターや精神保健福祉センターや家族との連携 3. 精神障害の病因とその分類 主な疾病(統合失調症、感情障害、依存症など) 検査、治療(薬物療法、精神療法、社会技能訓練(SST)、電気けいれん療法 作業療法など) 4. 精神症状とその観察 知覚の障害、思考の障害、感情の障害、意欲・行動の障害など 5. 看護過程展開の方法 普遍的セルフケア要素、発達のセルフケア要素、健康逸脱に関するセルフケア要素と観察自立(自己決定)のための援助方法、生活習慣の修正、習慣化、リズムを整える働きかけ、継続的な働きかけと自主性を尊重した働きかけ 6. 精神保健福祉法に基づく入院形態、行動制限、処遇 精神科病棟における治療環境 など 7. 精神保健福祉法の基本理念と精神障害者リハビリテーション 障害者総合支援法の基本的な考え方、精神保健福祉に関する資源とその活用と調整 就労移行支援、就労継続支援、地域生活支援事業、精神障害者保健福祉手帳、社会復帰、社会参加の実際と課題 など <p>実習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会復帰施設4日間(28H)、学内実習(まとめの会2H) ・精神科病棟にて看護過程を展開2週間(8日間 56H)、校内実習(看護過程の展開、検討4H) <p>評価</p> <p>実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度で評価する。(評価基準は別に定め事前に説明する)</p> <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程の展開の基礎実習」、「精神看護目的論」、「精神看護対象論」、「心の健康を支える看護」、「精神看護学演習」の履修が必要である。</p> | | | |